

平成23年度 第1回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、技術が育成し、社会に還元されることを目的に『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を開催いたします。

記

「平成23年度 第1回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成23年 8月30日（火） 13：00～15：00

場所：サンポート合同庁舎 低層棟 2階 アイホール

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（6件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の試行実証評価

『土留部材引抜同時充填注入工法（SK-080012-V）』について、現場で試行するための試行計画書の審査を行います。

3. 『四国テーマ設定技術』

平成23年7月15日迄、募集していた『平成23年度 四国テーマ設定技術』について、応募技術の紹介を行います。今後、技術内容については、審査・選定を行います。

※平成23年度四国テーマ設定技術 ①災害対応技術 ②構造物保全技術 ③維持管理技術

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成23年 8月25日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

○ 施工企画課長補佐

こばやし ゆきお
小林 幸雄 (087-851-8061 内線 3451)

ふるさわ ひろゆき
古澤 弘行 (087-851-8061 内線 3453)

～審議技術の概要～

<事後評価>

『もやいドレーン(CB-08007-A)』

法面、擁壁などの構造物の裏込め排水、トンネルの裏面排水において、排水材の通水方向にスパイラル状の空洞部を配置し、耐圧強度、集水・排水性を向上させた技術である。

『YTロック工法(KK-08017-A)』

鋼製構台や単管足場に代わり、支柱に設けてあるソケットに工具不要でワンタッチはめ込み方式の専用部材を緊結し、システム鋼台を組み立てる技術である。

『キャプロア(KK-07006-A)』

車両用防護柵について、「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」の理念と防護柵としての安全性を兼ね備えた景観型防護柵の技術である。

『鉄筋損傷防止型防護柵(QS-08003-A)』

橋梁の地覆をそのまま利用して防護柵のみの取替えを行う場合、地覆鉄筋を切断する等の損傷する事無く、アンカーボルト及び防護柵の設置ができる技術である。

『防災対応型屋外可搬式トイレ(SK-06020-V)』

上下水道が無く、汲取り車が入れない場所（河川敷や山岳）や、周辺環境への配慮等から処理水を放流できない場所に、設置・使用できるトイレである。

『粉塵低減材ファイナッシュ(SK-01009-V)』

吹付けコンクリートの細骨材の一部としてファイナッシュを混入することで、粉塵の低減、リバウンド量の減少等により、吹付けコンクリートの施工性の改善と品質の向上を図る。

<試行実証評価>

『土留部材引抜同時充填注入工法(SK-08012-V)』

土留部材の引抜きと同時に、当該土留部材の引抜き跡に対して充填注入を施すことによって、周辺地盤の沈下等の発生、隣接する家屋等その他の構造物に影響を及ぼさないようにする技術である。

※ 技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

平成23年度 第1回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議事次第（案）

日時：平成23年 8月30日（火）13:00～15:00

場所：四国地方整備局 アイホール

I. 開会

II. 挨拶（企画部長）

III. 委員長選出

IV. 議事

1. 平成22年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

1-1 平成22年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

2-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2-2 もやいドレーン

2-3 Y Tロック工法

2-4 キャプロア

2-5 鉄筋損傷防止型防護柵

2-6 防災対応型野外可搬式トイレ「バイオミカレット」

2-7 粉塵低減材ファイナッシュ

3. 新技術の試行実証評価

3-1 土留部材引抜同時充填注入工法

4. 平成23年度四国テーマ設定技術試行について

4-1 平成23年度四国テーマ設定技術の応募結果について

5. その他

V. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Technology Information System, 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところではありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

(大 学 5名)

松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)

吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)

山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)

高木 方隆 高知工科大学工学部 教授(国土情報処理工学)

渡邊 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授

(コンクリート工学)

(産 業 界 3名)

(社)日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長

(社)建設コンサルタンツ協会四国支部 企画委員会 委員長

(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料資源研究グループ長

(独)港湾空港技術研究所 研究評価官

(整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名